



おやつの日

今月から毎月一回、栄養科職員手作りのおやつを楽しめる【おやつの日】が開催されることになりました。
“季節を感じてもらう”をコンセプトに、目で見て楽しめる色とりどりの美味しいお菓子を提供していきます。



今月は夏をイメージした『青空ゼリー』。真っ青なゼリーの上に色鮮やかな寒天ゼリーをアイスクリームと共にトッピング。栄養科職員による提供も大好評でした。



一心不乱！



～目次～

- 病院短信 渡辺 弘子
- 日常の一コマ 内藤 利江
- いきいき看護・介護 伏見 麻衣
- 放射線科だより 宮下 寛
- おやつの日 デイルームにて
- スタッフ紹介 三宅 那奈

9月の予定

◇誕生日会

1病棟	9月 5日 (火)
2病棟	9月 15日 (金)
3病棟	9月 4日 (月)
各病棟デイルーム 14:00~	



スタッフ紹介

2病棟 看護師
みやけ なな
三宅 那奈
血液型：A型
趣味：ショッピング
特技：サクソ演奏



5月中旬に入職し、3か月が経ちました。私は前職でも認知症専門の病院での経験がなかったため、最初は不安を感じていましたが、先輩方に支えていただき、患者さんとの関わりや仕事にも徐々に慣れてきました。これからまだまだ学ぶ事も多いので頑張っていこうと思います。



病院短信

2病棟看護師長

『寄り添うケア』

渡辺 弘子

先日、お亡くなりになった患者さんについて書かせていただきます。
拒食があるため、施設では対応が難しいという事で当院に入院された89歳女性の患者さんです。認知症は重度で発語はなく、寝たきり状態で入院当初から終末期と思われる状態。入院期間はたった3ヶ月間と短かったのですが、ご家族も含めみんなで対応を考え、取り組んだ事例です。
入院してすぐ、寝たきりだった患者さんのQOLを高めるため、たとえ点滴をしていてもベッドから起こしてリクライニング車椅子に移乗させました。すると顔つきが変わり、何か言葉を話し始めるのです。聞き取れない発語ではありましたが、微かに笑顔にもなりました。ご家族は、何か月も寝たきりだったお母さんが車椅子に乗って起きていることに感動していました。

ご家族は面会にも頻回に來られ、よくお庭を散歩されていました。「お母さんの好きな歌だったんです」二女さんは耳元で「おぼろ月夜」をよく唄ってあげていました。ご家族にとっても大切な時間だったと思います。「いつもピカピカに綺麗にしてもらっていてありがとうございます。感謝しかありません」と何度も言っていました。私たちにできることはケアしかありませんから、目やには付いていないかな、お口の中は汚れていないかな、喉は乾いていないかな、爪は伸びていないかな、日々そんな思いでケアしています。

母親が認知症になり、身近で介護士の仕事をしていた二女さんは、自分も介護の仕事がしたいと思ったそうです。ある時「介護の講習を受けて就職が決まりました」と知らせくれました。そして「どんな心構えで仕事をしたらいいですか？」と質問されました。「優しさと思いやり、そして寄り添うことです」と咄嗟に答えましたが、自分にも言い聞かせる思いでした。
このたび事務局長が2ヶ月かけて現場で働いている看護介護主任たちから業務内容を収集し、何回もの話し合いを重ねて、業務改善を行いました。患者さんが穏やかに楽しく「その人らしく（人間らしく）」過ごしてもらうため、患者さんに寄り添う時間を増やすことが目的の業務見直しです。確かに15時〜17時はほとんどの職員が患者さんに関わる事が出来ています。まだ始まったばかりですが、常に不安を抱えている患者さんに寄り添うことで患者さんは笑顔になり、その笑顔を見てスタッフも笑顔になれる、という相乗効果も期待できるため、頑張っていきたいと思えます。



日常の一コマ

今月は3病棟のタキさん（83歳）の一コマです。

タキさんは栃木県で7人兄弟の5番目として生まれました。中学卒業後は実家の農業を手伝い、26歳の時に結婚、2人のお子さんに恵まれました。結婚後は埼玉県杉戸町に移り住み、夫が自営業（装飾業）を始めたため、その手伝いをしていたそうです。

平成9年にご主人が他界された後、しばらくはカラオケサークルに通ったりして楽しく過ごされていました。ところが、平成28年頃から外出しなくなり、何もせず一日テレビを見て過ごすようになったそうです。また、薬を飲み忘れる、入浴を嫌がる、失禁が目立つようになる、などの認知症状が少しずつ出始めたため、令和元年に病院を受診したところ、認知症と診断されました。

それから徐々に認知症状は進行し、家族に「馬鹿にしゃがって！」と大声を出したり、オレオレ詐欺の電話が掛かってきたと思込み、110番通報してしまったりしました。令和3年、自宅で転んで救急搬送され、右大腿骨頸部骨折の手術をしましたが、術後も介護されることへの拒否反応が強いため、自宅での介護は難しいということで、当院へ入院することとなりました。

入院当初に「家に帰りたい。すぐ帰れると思ったのに、また病院なの？ガッカリだよ…」と寂しそうな表情で言っていたのが印象的でした。また、オムツ交換の時に右足を少し動かしただけで「痛い！」と大声を出されていたため、私たちも一つ一つの動作の前に丁寧に声掛けをしながら、ゆっくり痛みがないように介助しました。

起きるのを嫌がるタキさんに「今井先生（以前のかかりつけ医）が、痛くても少しずつ動かさないと身体が固まっちゃうよ、と言っていましたよ」と声掛けすると、「今井先生を知っているの？良い先生だよ！糖尿病の薬をもらっていたんだよ」との返答。不思議と話している間は痛いと言いませんでした。

この声掛け、何度も使わせてもらいました（笑）

明け方のオムツ交換では、寝ているタキさんに小声で「オムツ交換しますね」と声掛けすると「あれ、もう起きてたの？今何時？ありがとね」と眠そうな目をこすりながら優しくねざらってくれる優しいタキさん。夜勤明けの「ありがとう」は心が穏やかにリセットされ、元気が出て、あと数時間頑張ろうと思います。相手を思いやる言葉、元気、絶やさぬ笑顔。これからも患者さんが穏やかに過ごして頂けるよう、日々頑張っていきたいと思えます。

3病棟介護員 内藤 利江



放射線科 だより

診療放射線技師 宮下 寛

当院の医師たちは、撮影したX線画像を診てしばしば撮影者である私に「これどう思う？」と問うてきます。いずれも各方面で名を馳せた歴戦のツワモノ医師、X線画像の読影力が不足している訳もありません。専門家としての放射線技師の意見も参考にした上で正しい診断に辿り着きたいのです。この事はX線画像診断だけにとどまらず病院内の各セクションに対しても同様で、特に看護・介護職員の優れた観察力は診断や治療方針に大きな影響を与えるほど頼りにされています。そのため当院には患者観察力に優れた職員が多くいます。他職種をチームの一員として尊重し、職員に対しても丁寧に接し、医療に対して謙虚に向き合う医師と接していれば『頼りにされている、もっと勉強せねば』と思うのは当然ですし、結果患者さんのQOL向上につながっているのだと思えます。

今まで、職員や患者にまで怒鳴り散らし横柄な態度で診察する開業医に受診し、嫌な思いをしたことが何度かあります。そんな医者からすれば職員は自分の思う通りに動く駒でしかなく、相手を尊重する事も無く意見を聞くことなど皆無でしょう。そこでは「うちとは随分違うなあ」と感じつつ、二度と受診しない決意を固めるのです。

日本医師会会長・世界医師会会長を歴任した故武見太郎氏はこう言ったそうです。「(医師の集団は)3分の1は学問的にも倫理的にも極めて高い集団、3分の1はまったくのノンポリ、そして残りの3分の1は、欲張り村の村長さんだ」と。さて当院の先生方は…?



いきいき看護・介護

2病棟 介護福祉士

伏見 麻衣

残暑厳しい9月ですが、皆さん体調はいかがでしょう。季節の変わり目は体調を崩しやすいので、ちょっと風邪っぽいなど感じたなら早めの対策をしましょう。風邪を予防するには抵抗力や免疫力を高めることが重要で、身体や胃腸が疲れているとウイルスも入ってきます。風邪の引き始めに摂りたい食材をご紹介しますので、免疫が落ちて来たなと思ったら、ぜひ取り入れてみてください。

◆風邪の時に特に摂りたい栄養素◆

①タンパク質（魚介類・卵・大豆等）
体力をつけて抵抗力を高めます。

②ビタミンC（果物・イモ類）

ジャガイモは加熱してもビタミンCが減らないのが特徴で、ウイルスの活動を抑える働きと免疫力を高めます。

③ビタミンA（緑黄色野菜・ウナギ等）

ブロッコリー、人参、ほうれん草、カボチャ等の緑黄色野菜にはビタミンAの元になるβカロテンが豊富に含まれていて、鼻やのどの粘膜を保護します。



これらの食材を使用し、家庭の味で風邪を引かないように気をつけてお過ごしください。基本的には栄養バランスの良い食事を摂ることが大切です。また、身体を内側から温めると血液の循環が良くなり、免疫機能が上がると言われています。ちょっと体調が優れないという時は、温かいメニューを食べるようにし、身体を冷やさないようにするのもポイントですね。

